

2019 年度 浦佐地域づくり協議会の主な実施事業について（活動報告）

はじめに

浦佐地域のコミュニティ活性化事業は、浦佐地区センターに「浦佐地域づくり協議会」を設け、「雪国おくにじまん会館」の管理のほか、様々な事業を行っています。地区センターとしての主な役割は、①施設全体の日常的な維持管理 ②協議会事務及びイベントなどの自主事業の実施 ③各行政区・市との連携 ④市報等行政区あて文書の配送 ⑤協議会が認める公共的団体等の支援と事務局事務 などがあります。また、独自のプロジェクト事業の企画と実施、地域の活性化に有効と思われる事業などとの連携を進めています。



（浦佐地域づくり協議会は、市民・行政区と行政の中間組織として 2008 年 4 月南魚沼市主導で設立された）

浦佐地区の概要

浦佐地区は 15 の行政区で人口約 4,600 人、世帯数 1,800 戸となっています。地区の中央を魚野川と JR、国道 17 号が南北に通じ、地区のランドマークとなる新幹線駅、魚沼基幹病院、八色の森公園、国際情報高校などがあって、旧大和町 4 地区の中心地区となっていた。地区の基幹産業は農業となっていて良質なコシヒカリ、八色スイカ、きのこ等が生産されている。地区の人口・世帯数共に増加傾向にあるが、少子・高齢化と人口の集中が、今後のバランスの取れた地区にとって大きな課題となっている。

1 活動拠点事業（市からの委託事業で予算規模 227 万円）

資料 1

- 浦佐地域づくり協議会の事務局は、雪国おくにじまん会館の 2 階にあって地域の活動拠点となっています。事務長ほか 2 名、計 3 名の事務員が常駐（月～金曜日 8:30～17:00）しています。また今年度からは「浦佐公民館」の事務室として、不定期ですが館長が同室で事務を行っています。
- ・「雪国おくにじまん会館」（浦佐地区センター）の運営と管理を行っています。
 - ・毎月 2 回、南魚沼市から発行される市報・お知らせ文書等、各行政区へ配送します。（原則毎月 1・15 日ですが、土・日曜など休日の場合には前日配送となります。年間 24 回以上）
 - ・浦佐地区センターの開館時間は、年末年始及び、祝祭日を除く月曜から金曜の 9 時から 17 時までとなっています。（会館の利用は予約により、9:00～22:00 まで休日も含め利用可能）
 - ・地域での困り事や地域の課題・問題、コミュニティ活動に関する相談事について窓口を開いています。また地域課題等について、県・市への窓口として“要望書”等のとりまとめも行います。
 - ・カラーコピー機の利用、芝刈機、小型除雪機、テント、折り畳み椅子・テーブル、PA 機器等の備品類の貸出も可能です。

（繰越金、雑収入等含む予算額 2,436 千円）

2 地域活性化支援事業（市から受ける交付金事業で予算規模 352 万円）

資料 2

地域活性化支援事業は市から交付金を受け、コミュニティの醸成また地域の活性化に向けた活動を行なう事業で、「提案事業」と「基礎事業」からなっています。事業費は南魚沼市から同名の交付金で賄われていますが、提案事業では独自の収入源を求めるなかで開催するイベントもあります。また前記交付金のほか、新潟県と南魚沼市から別枠で「地域との絆支援事業(交付金事業)」などの事業支援を受けています。

（繰越金、負担金収入等含む予算額 3,974 千円）

○ 提案事業（事業費予算現額 2,523 千円）

資料 3

提案事業の目的は、地域で行われている伝統行事や活性化イベントの支援のほか、地域全体を巻き込むような活性化イベントの開催などを通してコミュニティを醸成しようとすることです。

各種共催事業や浦佐公民館・各種団体・環境活動への事業費補助、小規模な観光交流・体験住宅施設など新事業に向けた取り組み、ほか幾つかの新規プロジェクト事業を進めてきました。

○ 基礎事業（事業費予算現額 1,517 千円）

資料 4

基礎事業の目的は“地域で実施が可能な小さな公共事業”をすることで、地域の安全・安心に寄与することです。主に道路などの維持補修・改善などを目的としていて、市道また準じる道路などで付帯施設などを中心に改善・補修工事などを行う事業です。

基礎事業は、地域で管理する道路水路の外、水路や市道などの簡便な補修工事など、地域の視点・目線から実施できる事業で、ここ数年、街路灯・防犯灯などの LED 化を計画的に進めるほか、道路施設などの小さな改修工事や災害対応など、市役所と連携するなかで進めています。

3 各種プロジェクト事業（概要紹介）

資料 5

○ びしゃもん通り賑わい事業

空洞化しつつある浦佐西山地区の活性化を目的に、商工会、料飲店組合の皆さんを中心に地域の連続した新しいお祭りとして創設しました。ローコストで省力化、お祭りの日常化を目指します。

‘19 年度も他団体からの補助金等受けることなく、予算的には協議会単独にて 5 月から 10 月まで 4 回開催（基本第 4 日曜日）を計画し、浦佐「毘沙門通り」で賑わい事業「小さな祭り」として開催しました。

お祭りは毎回テーマを決め、通りを“ホコテン化”し、軽トラ市も同時開催するなか、地域の手づくりによる芸能舞台を中心とした連続イベントとして実施しました。



小さな店の出店もお祭りの魅力のひとつ 地域の交流から活性化を！

5 月 26 日 樗&山菜まつり びしゃもん市 ストリート芸能 軽トラ市 300 人

6 月 23 日 さなぶり祭り びしゃもん市 ストリート芸能 軽トラ市 350 人

9 月 22 日 新米祭り びしゃもん市 ストリート芸能 軽トラ市 840 人

JR 浦佐駅で開催された「魚沼の陣」との相乗効果で多くのお客様が見えられた

10 月 27 日 きのご祭り びしゃもん市 ストリート芸能 軽トラ市 300 人



年々増強されるステージ



軽トラ市にも常連さんが・・・

4 回の開催で 1,790 人(前年比 99.5%)の人出となりましたが、芸能ステージではジャンルも拡がり、観客も増加傾向にあります。必要とする事業費では、PA 機器や机・椅子など機器備品の取得もあって、最小限の経費で最大の効果を発揮できていると思います。(更なる内容の充実も求められています)

ただ開催会場が道路(県道・路線バス経路)中心であり、道路使用による毎回の各種行政手続きと車両の通行を止めるなど負担も大きくなって、将来的な改善も必要と思われます。また好評な芸能ステージではありますが“マンネリ化”に陥らない更なる工夫が必要との声もありました。

(事業費支出 189 千円規模)

○ 夕涼み 生ビール&鮎まつり

7 月 28 日(日) 第 10 回 生ビール&鮎まつり！



美味しいと評判の鮎の塩焼き！



夕涼み！
浦佐の夏は「生ビールと鮎です！」

10 回目の開催となった『夕涼み 生ビール&鮎まつり』は、知名度も高まり“浦佐の夏の風物詩”として、地域の一大イベントに定着したと感じています。

良質な生ビールと、じっくり炭火で焼かれた美味しい鮎、そして連続して演じられるジャンルに富んだ地元芸能と、プロ歌手によるステージは今回も大変好評でした。

今回は台風の通過などあって開催が心配されましたが、午前中に雨も上がり順調に準備は進みました。午後からスタートしたお祭りでは、買い物を楽しむ人、テントにじっくり腰を据える人など、定番となったお祭りを楽しむ人・・・で埋まりました。また今回で記念すべき 10 回目の開催もあって、“料金の改定”、“スタッフ T シャツの一新”、“ステージの大幅変更”など次のステージへ踏み出すための改善にチャレンジしました。

このイベントを開催するスタッフも 90 名を越え開催準備は 5 月の実行委員会の開催から、イベント当日の前後 4 日間は大変な作業となります。実行委員会や各種準備作業と開催当日は早朝から夜まで連続する取り組みの中で培われる連帯感・一体感の醸成は、まさに“コミュニティの醸成”そのものであり、地域の大きな“人の力”となっていると思われます。

人出 4,200 人 (事業費 2,129 千円)

地域情報は協議会の H P からも見るができます

浦佐地域づくり協議会 ホームページ <http://urakyou14.com>

浦佐地域づくり協議会ブログ(地域と協議会周辺の話題発信) <https://yucreate.exblog.jp/>

E メールアドレス gi-to-ai@bloom.ocn.ne.jp

○ 八色の森健康ウォーキング（協働事業）

旧大和町時代に整備が始まった“レク都市公園”は魚沼地域では初めての都市型公園として建設されることになって、建設もさることながら“公園の活用と周辺整備”は大きな課題でもありました。国道や高速道路から公園に至る道路環境の整備と公園の周辺整備、とりわけ天王町地域の環境整備は特に急がなければならない重要な取り組みでした。また“知ってもらうこと、利用してもらうこと”も公園建設が進むなかで並行して取り組むべき課題でした。

県・市と地域はそうした状況の中で協働事業としての「ウォーキングロード協議会」を立ち上げ、更に直営のイベントの実行組織としての「八色の森健康ウォーキング実行委員会」も組織しました。

行政と地域が協働で行うウォーキングイベントで、奥只見レクリエーション都市公園「八色の森公園」を発着とし、水無川・魚野川などの舗装された堤防道路を主体とするコースで、景観を楽しみながら歩きます。

里山や水辺の景観などを楽しみ、参加者との語らいも楽しみの一つ、地域を知ることや、健康をテーマにしたウォーキングイベントとなっています。

今年の 9 月 23 日（毎年秋分の日に実施）には、前日からの台風の通過による風とフェーン現象はありましたが、164 名の参加を得て、初秋の水無川・魚野川の堤防道路やコシヒカリの水田景観を楽しむことが出来ました。

全体では 200 名規模 （事業費 187 千円）

また前記目的を持ってスタートしたウォーキングイベントですが、実行組織が非常に広範な部署や地域に渡っていることから「協働体制」を維持することが難しくなっている現状もあります。一定程度所期の目的を果たしたと思われる今、今後の実行体制を含めイベント全体について見直しが必要と思われるます。



○ 浦佐地域合同「賽の神祭り」

以前は浦佐中学校として利用されその後工場用地として転用し、現在は“工場跡地”となっている土地について、地域に何らかの形で繋ぎとめ、更に活用させて頂こうと“跡地利用促進協議会”が立ち上がりました。地域イベント等の駐車場とし利用と整備などを行うなかで、地域の伝統行事である「賽の神祭り」の再興が提起され、浦佐大区、利用促進協議会、そして後発の地域づくり協議会など“地域合同で！”との趣旨から「賽の神祭り」の開催が始まりました。



1 月 13 日（成人の日） 浦佐駅西側、旧浦佐中学校跡地の広場をお借りし、今年 11 回目となる地域合同「賽の神祭り」を実施しました。今年も暖冬の年明けで積雪は 0 センチ！ 強い雨降りのなか一年の無病息災や家内安全を祈ることが出来ました。

事前に砂利が敷き均された会場に、テント 3 基を設営し、温かな甘酒やトン汁で参加者を迎えました。



温かくて美味しいとん汁と甘酒が振舞われます

午前 9 時から始まった会場設営も順調に進み、白山神社宮司による神事がしめやかに執り行われ、午前 11 時「賽の神」に協議会長ら 5 人により“点火”されました。

人出 170 人 (事業費 140 千円)

○「フットパスコースの整備」の取り組み

フットパス事業は、人口減少が続く地域の経済的活性化も視野に入れた総合事業として 2016 年度から南魚沼市の支援(パイロット事業)を受けるなか勉強会、講演会の開催から本格的に始まりました。

「人口減少対策」と、「小さな観光」による地域活性化の取り組みとして、協議会事業費のほか今年度も「南魚沼市」と「県の復興基金」から補助を受けるなか、秋のコース開設に向け事業を進めました。

今年度からは、新潟県南魚沼地域振興局から地域づくり活動に対するサポートを受けることが決まり、モニターツアー・先進地視察など実施するなかで、今後の事業展開について相談等サポートを受けながら進めています。また、開設に向けた標柱や木道整備、コースマップの作成、CM 写真の撮影など実施に向けた資料作成を行いました。



「日本フットパス協会」との交流も継続し、協会加入に向け準備します。

(詳細は浦佐フットパス専用サイト・ブログ参照)

○「浦佐の T シャツ」作りと販売事業

“浦佐のアピール”と地域の活性化、などの創出を目的に、「生ビール&鮎まつり」でデザインされたスタッフ T シャツをベースに一般販売用に製作をしました。製作数は 200 着(M・L サイズ)で販売単価は 1,700 円/着、地区内数店舗にて販売中です。



○ その他支援事業の取り組み

毎年実施される地域の活性化イベント事業にも協議会は積極的に参加しています。

- ・第 10 回南魚沼グルメマラソン 6 月 9 日(日)
参加者 5,766 人 スタッフ 800 人規模



・第 33 回耐久山岳マラソン・

健康歩こう大会 9 月 1 日（日）
参加者約 1,494 人 スタッフ 250 人規模

・南魚沼グルメライド(10/6 開催)、では立哨員スタッフの
協力として参加をしてきました。



山耐マラソンのスタート前、恒例のセレモニー



4 多面的機能支払交付金事業

平成 26 年度から始まった「多面的機能支払事業」はそれまでの“減反政策”に代わる新たな国(農水省)による交付金事業として、「農振地域」と周辺を含む様々な農業環境の維持と整備を目的として創設されたものです。事業を推進するための組織は南魚沼市内 12 地区に設置する予定でしたが、浦佐地域には対応を受け入れる団体組織が無かったことから、浦佐地域づくり協議会として“こうした交付金事業も取り込むなかで地域づくりを進める”とした考え方から、2014 年より本事業に取り組むこととしました。（独立会計・別組織として活動し、事務局は共有しています）

浦佐地域の「農振地域」と周辺地域を対象にした農水省の交付金事業で、「農業環境を守り育てる」ための様々な活動を行っています。

主体となる組織は「浦佐地域広域協定(会長井口義夫)」で、鰾島地区をはじめ 5 組織から成っていて、事務局は協議会事務局となっています。

2019 年度の全体事業費は 1,300 万円規模となつて、農地と農用施設、景観を維持するための草刈作業や道水路の保守・農道の補修作業、また“田んぼ教室”、景観事業等々、地域の農業者が主体となった活動を行っています。

長寿命化事業では水路のコンクリート化工事など建設業者への工事委託も可能となり、老朽化した水路の改修工事などが施工可能となって事業効果を上げています。



共同作業で農道の整備に取り組む

浦佐地域広域協定 会長 井口義夫 201.7ha

八色の森浦構	76.5 ha	八色の森浦構 代表 坂西浩一郎
川原町環境サポータ	14.3 ha	川原町環境サポータ 代表 井口義夫
広域協定浦佐八色	24.5 ha	浦佐八色 代表 上村康則
広域協定鰾島	48.9 ha	鰾島 代表 岡村昌幸
広域協定五箇	37.4 ha	五箇 代表 井口章一郎



5 新しいスタート！浦佐公民館の活動

今年度から地域づくり協議会の組織に編入された「旧公民館浦佐分館」は【浦佐公民館】として名称を変え、新しいスタートを切りました。

菊づくり・生け花と二つの委託事業を含め 11 事業を計画し活動してきました。この事業を通して、参加者が活動に興味関心を持ち、自主的に活動を始めて欲しいとの願いがあります。山登りに興味を持ち、その後個人で山に行ったという話も聞いています。

大きな事業は浦佐地区明朗運動会で、地域活性化、地域づくりの大きな役割を果たしております。

社会情勢の変化から半日開催ですが、多くの住民の方々の触れ合いは、少子高齢化が叫ばれている今日、大事な役割を担っていると自負しております。

他に公民館役員ではグルメマラソンはじめ耐久山岳マラソン等の協力などで、地域づくりへの支援を行ってきました。

(事業費規模：66 万円)

主な実施事業

- ・生け花教室 ・菊づくり教室
- ・歴史探訪「地域の歴史にふれる遠足」 ・トレッキング「健康づくり登山」
- ・三十三番観音様巡り
- ・浦佐地区明朗運動会
- ・グランドゴルフ大会
- ・そば打ち講習会 ・しめ縄づくり教室
- ・百人一首 子どもかるた大会
- ・冬山トレッキング in 坂戸山 (中止)



6 その他事業

○ 花いっぱい運動

浦佐地域づくり協議会「環境部会」の皆さんにより、大和・魚沼地域の玄関口である浦佐駅東側地区の県道及び市道植栽柵の花壇作りに取組み、植栽区域を年々拡げ天王町区域では花壇作りを大和公民館まで伸ばし、通行する車両や訪れる人たちを大いに癒しています。



○ ウェブ版「料飲店マップ」

魚沼基幹病院の開院、大型店の出店、またメディカルタウン・IT パークなど動きが活発になるなか、中心地域での人の動きも着実に多くなっていると感じます。

浦佐料飲店組合の協力を得ながら作られた「Web 版料飲店マップ」は、浦佐と東地域の料飲店の様々な情報を一括して見ることができ、スマホやタブレットから簡単にお店を検索することができます。

「料飲店マップ」ではメニューや写真などの内容更新や新規の加入など日常的なメンテナンス作業など行っています。

「料飲店マップ」は浦佐料飲店組合と共同事業として、南魚沼市のパイロット事業補助金を頂くなかで 2015 年度から始まりました。“料飲店マップ”で検索してみませんか！



○ 南魚沼暮らし体験住宅の利用ができます

浦佐毘沙門通りに、南魚沼市の「暮らし体験」施設として利用が期待され、地域の交流施設としての活用も可能な施設でありましたが、残念ではありますが今年度末までの利用となりました。

地域の人口減少が進む状況にあっては、自然増加に期待するばかりでなく、新たな移住・定住者を受け入れるためには今後もこうした施設も必要であると考えます。

2019 年度の事業会計予算規模は 138 万円となって、南魚沼市で短期間暮らししてみる施設としての受け入れ態勢と施設の管理運営について市と契約しています。



(2019 年度で事業を終了することとしました)

○ 「地域との絆づくり支援事業」の取り組み(南魚沼市補助事業)

“フットパス foot-path による小さな観光事業で地域の活性化” を目指し、'18 年度から新潟県の復興基金事業と併せ南魚沼市の補助事業として「地域との絆づくり支援事業」を進めてきました。今年度の事業費は 535 万円規模('19 年度予算額)となって、一部コースのオープンに向けた準備を進めていきました。(コース整備、コースマップの製作、ほか)



フットパスの路づくりに汗を流しました



見慣れた景色もフットパスの重要なお宝となりますね

○ 南魚沼地域振興局サポートチームの活動

新潟県が今年度から県内 12 の地域振興局ごとに一つの地域・地区を選定するなかで、振興局各部からメンバー 6 名が集まり、何をどう支援するかを十分な協議するなかで・・・ “人口減少と地域の活性化” を目的とした「フットパス事業」を支援頂くことに決まりました。

秋にはフットパスの先進地視察を計画し、県・市の関係者をはじめ市内の地域づくり協議会、浦佐の地協関係者など 29 名で参加することができました。関係者が、先進地である「東京町田市のフットパス」の現況と取り組み、交流施設の活用などについて共通の認識を持てたことは大いなる収穫・研修の成果となりました。



東京都町田市のフットパス体験視察



新潟市でのサポートチームの報告会

* 会計監査報告書の添付

資料 6

メモ欄

写真で見る地域づくり協議会の活動



料飲店マップは【浦佐地域づくり協議会】でも検索！

